# IGF 2023に向けた国内IGF活動活発化チーム第29回会合 発言録

2023年1月10日

【加藤】　皆さん、こんにちは。5時になりましたが、今、10人お集まりですね。

それでは、予定の時間になりましたので、第29回IGFの活発化チーム会合を始めさせていただきたいと思います。

皆さん、少し遅いですが、明けましておめでとうございます。どうぞ今年もよろしくお願いいたします。

それでは、予定の時間になりましたので、会議のアジェンダに沿って進めさせていただきたいと思います。

前回、昨年のエチオピアの会議の報告会をやるというお話が出まして、今日はそのお話がかなり主要なものになると思います。それでは、このアジェンダに沿って進めさせていただきます。

まず最初に、2023年、いよいよもう今年になりましたけれども、今年の会議の検討状況について、飯田様、おいでになりますでしょうか。

【総務省加藤】総務省ですけれども、ちょっと飯田は遅れて参加します。総務省加藤です。よろしくお願いします。

【加藤】　分かりました。それでは、少しお待ちすればよろしいですか。ほかのことを進めさせていただいて。

【総務省加藤】そうですね。ちょっと今、幹部説明に入ってしまったので、多分戻ってくると思いますので、そうしたら政府のところをちょっとお願いできればと思います。

【加藤】　分かりました。

それでは今日は、そういう意味で言うと、タスクフォースの状況とか今度の報告会とか、今年の状況を伺わないでもやれるかなというのもございますので、少し後にさせていただくということで、河内さん、いらっしゃいますでしょうか。MAGのほうから何か御報告いただくことがあればと思います。河内さん、いらっしゃいますか。

【河内】　MAGですけれども、2023年に入って第1回目の会議が、まだ実は来週の17日の深夜、18日の朝ですけれども、新しいMAGのメンバーも含めて会合がある予定になっていまして、ただ、メールで皆さん、メーリングリストでやり取りしていまして、特に第1回目のオープンコンサルテーションなど、MAGミーティングの日程と場所について、いろんな意見が年末から飛び交っていまして、何か2月にユネスコの会議がパリであるからそれにくっつけたらどうだとか、あとリーダーシップパネルの会合が3月の初めにウィーンであるらしくて、それにくっつけるべきではないかとか、いろんな意見が飛び交っていまして、結局、先週、poll……。要するに3つ選択肢があって、どれがいいか投票しろと言われまして、投票した結果が、多分もう締切りを過ぎているので出ていると思うので、そろそろ連絡が来るかなと思っているのですが、まだ来ていないので、要するに、まだ最初の会合の日程と場所は決まっていないです。そろそろ来るかなとは思います。

それを除くと、一応、皆様、御存じかもしれませんが、2022年のIGFの結果を受けて、2023年のIGFはどういうふうにするべきではないかなどという意見の募集が1月16日までになって出ているのと、あと、2023年のIGFのテーマについてのインプット、意見の募集が、今月31日までというので募集が出ているというような状況です。

それぐらいしか報告がなくて申し訳ないんですけど、簡単ですが、今のところ、そんな感じです。

【加藤】　どうも河内さん、ありがとうございます。アップデートとして、2023年度の新しいMAGというのが再発表になったわけですね。だから、今年、新たに選ばれた方が何人かいて、継続して去年から、河内さんを含めて続けられることも、MAGメンバーであることが再確認されたというのが、たしか昨年12月に出たのだと思いますが、そういうことですね。

【河内】　そうです。

【加藤】　それを受けて、新しいメンバーで今のようなことをやり取りされていると。

【河内】　そうです。

【加藤】　ちなみに日程が、2月のユネスコか3月の最初のウィーンのか、それ以外の3つ目の選択肢というのは伺っていいんですか。

【河内】　3つ目の選択肢は、それ以外、要するにどっちにもくっつけずに、3月にジュネーブでやるみたいなものでした。

【加藤】　分かりました。そのタイミングと、今回、今言われた1月31日までに、テーマの基本的な方向について意見を出してくれて、それを整理するタイミングと、最終的にMAGで議論して、5月頃に個別のテーマを受け付けるといいますか、それの募集開始のタイミングというのはどんな感じになるか、日程を決めるにおいて、何かそういうやり取りはありますか。今年は個別のテーマの応募を早くするとか、そういう動きはあるのでしょうか。

【河内】　いや、まだそこまでの議論はしていなくて、みんな単に、どうせユネスコの会議があってパリに行くんだから、旅費を節約するためにそこにくっつけてほしいとか、あとリーダーシップパネルとの対話は重要だから、それにくっつけるべきとか、ただそういうことばかり言っているので、あまり具体的な、作業内容と言ったらおかしいですけど、そういうものについては何も、みんなあまり触れていないです。

【加藤】　ありがとうございます。すみません。私だけが先に質問してしまって。皆さん、御質問とか何かございますでしょうか。お願いいたします。河内さんに対しては特にございませんか。特に手が挙がっているというのも拝見しないですが。

では、MAGからの御報告はこれでよろしいでしょうか。もし後でまたあれば、河内さんはいらっしゃると思いますので、よろしくお願いします。

それでは、ありがとうございました。

【河内】　ありがとうございます。

【加藤】　次に、昨年発足したIGFタスクフォースの会議、実は今日の昼過ぎに第3回目の運営委員会というのがありまして、それを含めて、前村さんから状況の御報告を頂けますでしょうか。前村

さんは、前にも御報告したとおり、この運営委員会の事務局長をなさっているという関係で、よろしくお願いいたします。

【前村】　こんにちは。前村でございます。今年もどうぞよろしくお願いいたします。

事務局長なのかどうなのかよく分からないのですけれども、そうですね、御説明してまいりたいと思います。

まず、活発化チームの前回の会合が12月5日でしたので、それ以降何が起こっているかというと、第2回運営委員会と第3回運営委員会というのをやりました。先ほど加藤さんからもありましたように、第3回は本日行いまして、12月15日に第2回がありました。それで、第2回のときに、どういう会員候補に声をかけていくかみたいな話をし始めたのですけれども、そのときに、どういう人を集めればいいのかというのは、多分にどういうことを言っていくかによるのではないのかということで、そういう議論に端を発しまして、年末押し迫ったときに、有志でブレーンストーミングみたいなことをやって、どういうことを日本から打ち出していくのがいいのかねというふうなことのディスカッションをやりました。

それで、その中で少し興味深いというのか、なるほどなというふうなことがあったのは、江崎さんから、どちらかというと、IGFというのはトーキングパーティーみたいな感じの捉えられ方が多くて、何か集まって話をするディスカッション自体はいいのだけれども、それが、もう少し積み上げられるようにできないものかと。それで、例えば学生というのか研究者の皆さんが論文を書けるようなものにすると。それで、論文であれば、次に参照されて発展していくじゃないかというふうな感じのところから、あまり定性的なものではなくて、どうせ速記録であったりミーティングレポートだったりというのが出てきますので、そういうものから、例えば一番簡単な例でワードクラウドみたいなものがあって、出現回数の分析というのはできるわけですよね。だから、そういう分析の方法とかというのがあるんじゃないの？　みたいな話があって、これ自体は、テーマ出しでも何でもなくて、IGFというものに対して、インプルーブするためにはどういうふうにしていく方策があるのかなみたいな切り口だったのですけれども、そういう話から、IGF 2023を、日本がローカルホストをやるのだけれども、そのときに、次のIGFのホスト国に引き継ぐような申し渡しのような、経験値みたいなものを渡していくというふうな感じがいいんじゃないのかというのは、これはIETFがそういうことをやっているということのようなのですけれども、そのようなアイデアも出てきました。

それで、同じくテーマ出しのような観点から言いますと、これは第3回、本日の運営委員会で出てきたのですけれども、いつもと違う特別な2023年、日本で開催するという、2023年という時間系列の中のポイントと、日本のポイントから、どういったものをテーマとして出すべきかというふうな議論が出てきまして、その中では、インフラストラクチャーというんですか、低軌道衛星みたいなものが、サービスが定着し始めたというのが、2022、2023年というのはそういう時間であろうし、去年のワールドカップのABEMA TVでの中継というのは、放送というインフラではなくて、インターネットのインフラがそこまでトラフィックを割くことができるようになってきたというふうな、そういうインフラでありアクセスでありというところの、変質、質的な転換というのが1つポイントになるのではないかといった、2023年だからこそ特にどういうものを打ち出していくのかというふうなテーマに関して議論されました。

これというのは、取りも直さずというのか……、取りも直さずというのはちょっとおかしいですね。

そういった形で、日本から何を打ち出していくのがいいのかなというディスカッションをしているのですけれども、この内容というのは、先ほど河内さんからも御紹介がありましたけれども、Call for Thematic Inputsというのが、1月31日まで締切りでやっていまして、こういう発言機会に何を言っていくかというふうなことの内容になっていくというふうな話の流れにもなっていったりもしますと。

ということで、本日はThematic Inputsのたたき台みたいなものを、事務局として私がつくってきたのですけれども、それに、そうじゃないんだよなみたいな形で、本日、議論がとても盛り上がって、これは非常に重要なというのか、2023年でどういったところに集中してやっていくのか。日本から打ち出すというのもそうだし、あとテーマトラックとしてどういったものをしつらえたほうがいいのかということをMAGに対してインプットしていく。ホストカントリーからIGF事務局へというふうな、幾つかチャネルがあると思うのですけれども、そういったものの戦略というのか戦術みたいな感じの内容の議論をやっているのではないかと思います。

もう一つ、11月に設立総会を行って、設立発起人は今、5団体が会員としているのですけれども、今後、ではどういうふうに入会の働きかけをやっていくのかというのも議論のもう一つであるのですけれども、こちらは一旦、第2回の運営委員会で、どういうテーマかによるのではないのかという話があって、テーマの検討に入ったのですけれども、改めて、どういう要領で、どういう候補に対して声をかけていくのかというのを、本日ちょっとディスカッションしました。それで、次回までの間には入会の働きかけが始められるような形にしていきたいということで考えておりますということです。いろいろな内容検討の上で、どうやってタスクフォースを転がしていくのかというのを考えている最中だなという感じがいたします。

というわけで、私から一通り御報告としては以上なのですけれども、加藤さんから補足があれば、ぜひともよろしくお願いします。

【加藤】　ありがとうございます。

補足という意味では取り立ててないのですけれども、タスクフォースからいろいろな団体に声をかけていくということに関連して、活発化チームもいろいろ、2023年に向けて、いろんな団体とコンタクトしながら、さらに普及啓蒙の推進をするということがあったと思いますので、いろいろお声がけをする、お声がけが先ですね、その辺の調整も、もしうまく協力なりコーディネートできればいいんじゃないかなと、今のタイミングで思います。特に、前回の活発化チームの会合でも、IGFとは何かというものをきちっと説明するものが欲しいという話があって、ドラフトをつくっていこうということになったわけですけれども、そういうものも多分、タスクフォースのほうでもいろいろお声がけをするときにも、あると便利ということになると思いますので、そういうのも相互に協力しながらやっていくのがいいのかなと思っています。

それと、先ほどのテーマのインプットが1月31日までということですので、タスクフォースとしてはタスクフォースで、ある程度まとめた形で出していくということになると思いますけれども、これは基本的に、個人でも全く別の団体でも誰でも出せますので、もし、ぜひ自分たちはこういうことをやりたいとか、やるべきだと思うというのがあれば、1月31日までに、活発化チームとしても御意見等、頂ければいいかなということだと思います。もしそういうのを、タスクフォースからも一緒に声をかけてもらいたいということであれば、タスクフォース経由で出すということもまだ可能

ですよね。ある程度、コメントを事務局長のほうでまとめていただいているということで、ある程度はそういうことを考慮いただくことができるかなと思います。

私からの補足という意味ではそういう感じですけど、前村さん、何かさらに付け加えることがあれば。

【前村】　2つぐらいあるのですけれども。

1つは、Thematic Inputsのほうは、活発化チームとして出すというセンスもありかもしれないですし、そこは活発化チームの中の議論を通じて、各個人や団体からインプットするということでもいいのかもしれないなと思ったというのが1点です。

もう一つは、大事なことというのか、テーマの打出しみたいなものを言い忘れた、報告し忘れたことがあって、運営委員会でやるのではなくて、ワーキンググループをつくってやったほうがいいかもしれないねというようなことを言っていまして、こちらに御参画いただく、活発化チームからの御参画があってもいいのかもしれないと思いますので、そういったこともちょっと考えていったほうがいいかもしれないなと思っています。

さっき終わった会議なので、それで今日の活発化チームの会合に何かそういう御提案をするというふうなレベルまで煮詰まっていないのですけれども、ちょっとまたそういう御相談もさせていただければなと思います。

【加藤】　前村さんから御覧になって、幾つかテーマとしてこういう方向のことを検討していくべきなのではないかという、何となく三つ、四つ、方向性が見えたと思うのですが、そのぐらい、イメージをちょっと申し上げてもいいかなと。どこまで……、いかがですかね。

【前村】　またこれは、私は割と納得しながら聞いていたので、それを共有しても別に構わないだろうとは思うのですが。

【加藤】　そうですね。

【前村】　幾つかのポイントがあって、1つは……、先ほどそういう話はしなかったですかね。ちょっと待ってくださいね。

結果的に、まず2つ非常に大きなものがあって、1つはSDGsというのか、気候変動とか、そういうグリーンな、グリーントランスフォーメーションという、GXという言葉もあるぐらいなのですけれども、データセンターだったりCDNだったりと、電気を食う業界に行って、昨年のIPミーティングのときには、どうやって消費電力の削減をしていくかというのも、非常に各社、苦心、腐心してやっているというところもあって、こういったことは、1企業で考えることでも1国で考えることでもなくて、グローバルな広がりの中で考えていくべきだとすれば、またステークホルダーもマルチステークホルダーで考えていくべきだとすれば、IGFというのがいい機会なのではないのかというのが1つ。

もう一つは、先ほど言ったように、アクセスに関する変換点に来ているのではないかというところで、その辺が一番、テーマとして、タスクフォースのほうとしてはぴんときているところなんです。だから、その辺と、あともう一つ、何でしたっけ。

【加藤】　ふわっとした言い方にまださせていただきますけど、どちらかというとインフラ系の、

先ほどの低軌道衛星の話などもそのうちの一つに入ってくると思うのですが、インフラ系の話。もう一つはインクルージョン系という、いろいろな人をどうやって巻き込んでいくかということを含めて、インクルージョン系のものといいますか、そういうことを考えると。それから、今言われたSDGsですね。あと、プラットフォーム的なものをどう考えるかという言葉も4つぐらい、大きな枠としてはあったのかなと思います。

【前村】　そうですね。

【加藤】　それを、先ほど言われたように、何となくワーキンググループで、そのワーキンググループが1月31日までに何かまとまってすぐ出すというよりは、その後、具体的なテーマを出していくとか、そういうことにもつながっていくのかもしれないんですけど、そこまで細かい仕組みについては決まりませんでしたけれども、何となくワーキンググループをつくって、それぞれのイシューについていろいろな意見が出せる体制ができるといいなというのが、ほぼコンセンサスだったのかなと思います。

【前村】　そうですね。ありがとうございます。

ちょっと、私も幹を言っていなかったような感じがするので、こういった内容面をどうやって打ち出していこうかというふうな議論をしているということは、そういう議論の中から、ワークショップであったりオープンフォーラムであったりの提案や内容の検討もできるだろうし、これは河内さんの前で申し上げて、もしそうじゃないんだよというのだったら教えていただきたいのですけれども、もしそういった検討で、とてもすばらしく骨太で、価値の高いものを企画できるのだったら、それをメイントラックで採用していただくことも何か考えられるぐらいのものができるといいよね、みたいなことを言っていまして。ということは、タスクフォースの議論が、具体的にIGF 2023にどういうセッション提案を出していくべきかという、内容のほうに広がってきつつあるというところであると思いますので、そういったところに、活発化チームでこうやって一緒に活動なさっている方々もぜひとも御参画いただいて、一緒にやったほうがいいんじゃないのかなという感覚を私自身は持っているんです。また、どっちもやっている人間がどっちのことも言うと、ちょっとあまりよくないので、どうにかきっちり仕分をしながら進めていければなと思っているところですが、同じことをやるのに別々にやるということはあまり意味がないのかなと思いますので、その辺は工夫していきたいと思います。

【加藤】　ありがとうございます。御質問、御意見はございますか。皆さん、いかがでしょうか。

総務省様からも、何かコメントとか追加とかございますか。特にございませんか。

【西潟】　西潟ですけど、今のところ大丈夫です。ありがとうございます。

【加藤】　大丈夫ですか。ありがとうございます。さっきABEMAとか、いろいろお話が出ていたので、付け加えていただくとしたらと思いましたが、大丈夫でしょうか。

それでは、もしこの件で御質問がなければ次のテーマに移りたいですが、タスクフォースとしては、次のアクションが、1月末までにテーマに関するインプットをまとめて提出するというのが1つと、それから、先ほどのワークショップ等を通じて中身の議論を今後検討していくということと、それから運営委員会のメンバーである5つの団体以外に声をかけていくという作業を、相手先を選ぶということも含めて進めていくと。この辺がアクションアイテムということで、前村さん、よろし

いですよね。

【前村】　はい。

【加藤】　だから、今申し上げたようなことについて、活発化チームからもさらにインプットがあれば、恐らくメールベースで伝えればお伝えできると。

ちなみに、タスクフォースは恐らく2月の1か月後ぐらい、2月10日以降ぐらいに次回が行われるというイメージです。その間、もう少し事務的なことに関して、小グループというかワーキンググループで作業するというようなことになると思います。

それでは、御質問がなければ、次に移らせていただきたいと思います。次のイベントに関連して、2月9日に、前回のエチオピアのIGFの報告会をやるということがうまく決まったと思うのですが、そのことに関して、これは前村さんか山崎さんから、今の状況といいますか、お考えを伺うことはできますでしょうか。

【山崎】　では、山崎から御説明します。

【加藤】　よろしくお願いします。

【山崎】　前回は、まずは日程を調整することとなっておりまして、皆さん、御協力ありがとうございました。2月9日木曜日14時から17時までで、日程は決まりました。

あと、2番から6番までですね。この辺を議論いただきたいと申し上げたんですけど、ちょっと御意見は6番だけ頂きましたけれども、ほかはまだということで、取りあえず3時間で枠をということで、3時間でやるものと仮定して、以下、案を作ってみましたが、こちらを先にやりましょうか。

まずは、挨拶をどの程度やるかということで、内容が多くなって、時間があまりなければ、削るというのもありでしょうが、一方で、前回の日本インターネットガバナンスフォーラム2022のように、識者の方に語ってもらうというのも、関心を呼ぶにはいいかなというのもありますが、その辺、兼ね合いをどうするかですね。加藤さんなり、活発化チーム内の方に御挨拶いただいて、もうちょっと内容に進むという考え方もあるでしょうし、その辺を決めていただければと思います。

3番目の報告はもちろんやるとして、あとニューカマー向けに特別セッションとしてやるかどうかですね。あとは、働きかけみたいなセッションをやるかどうか。ニューカマー向けは、実積先生の意見によれば、この中でやるのではなくて、事前にスライドなりビデオなりでつくったものを見てもらうということでいいのではないかという御意見でしたけれども、その辺の議論も頂きたいなと思います。

参加者による報告は、前回の活発化チーム会合で名前が挙がった皆様を並べてみたというだけで、日程調整に参加していただいた方以外はまだ確認とか打診とかできていない状況です。

あとは、最後の挨拶とかというのを、どの程度、気合を入れてやるかというあたりですか。

そんなあたりが、たたき台をつくったときに浮かんできたことですけれども、皆様、ぜひ御意見なり感想なり質問なり頂ければと思います。

【加藤】　山崎さん、ありがとうございます。順に御意見を伺うという感じでよろしいでしょうかね。

【山崎】　順にでもよいし、思いついたところで、必ずしも順でなくてもいいのではないかと思います。

【加藤】　そうですね。分かりました。

皆さん、いかがでしょうか。御意見いただければと思います。できれば今日、大まかなことは決めて、あとは事務的に作業していただいて。2月9日までに活発化チームの会合はもう一回やれるかなと思いますが、そのために何回かをやるという、特にそういう必要はないですよね、山崎さん。大枠が決まれば。

【山崎】　どういう立てつけで進めるかにもよりますが、今回はプログラム委員会みたいなものが設置されていないので、皆さんお忙しいでしょうし、なるべく議論とかはオンラインで進めて、メーリングリストで最終的に計画を承認していただいたら、もうその都度それでやるという感じで進めざるを得ないかなと思っています。

【加藤】　分かりました。ありがとうございます。活発な御意見をお願いしたいと思います。

【金海】　すみません。全然出ていない金海と申しますが、この報告会を、最初に見た第一印象なんですけど、何かパネルディスカッションっぽいのは設けないんですか。参加者の方々のパネルディスカッション。

【山崎】　それは設けても構わないというか、ここでは「質疑応答、自由討議」としていますけれども、ここをパネルディスカッションにしてもよいし、特別セッションとかやらないのであれば、そこでがっちりパネルディスカッションにしてもいいと。

【金海】　そうですよね。そのときに、これも私は参加したことがなくて、IGF本番に行ったことがないのですけれども、基本的には今回のトピックなりをお話しいただくのはもちろんなんですけど、参加したときの失敗談とか、そういうのがあれば敷居が下がるのかなとは感じました。

【山崎】　それはとてもいいコメントだと思います。

あとは、行った方もいらっしゃいますし、あと、今回は行っていないけれども、過去、IGFに提案をされた方もいらっしゃるので。

【金海】　そうですね、経験者。

【山崎】　できればそういう方に参加していただいて、提案の苦労話とかしていただくと、特に今年は日本でやるので、その提案の仕方みたいなのが分かるといいという面は大いにあるとは思います。

【金海】　そうですよね。お作法みたいなのが多分あると思うので、お作法を皆さんでお話合いできればなというのがいいかな。それを聞いていただく。ちょっと言葉が悪いんですけど、ラジオっぽく聞いてもらえればいいのかなと感じました。ジャストアイデアで。

【山崎】　いえいえ、非常に参考になる御意見をありがとうございます。確かに、初めて参加なさる方々、去年、今年あたりから参加を始めたばかりという方にそういう情報があると、すごく今後やりやすくなるというのはあるのではないかと思いましたが、その辺は私が言うよりも、実際に今日参加していらっしゃる方から、そういうコメントなりをお伺いできればと思います。

【金海】　ぜひお伺いできればと思います。以上です。

【加藤】　ありがとうございます。ほかの方、いかがでしょうか。

【山崎】　高松さんから手が挙がっています。

【加藤】　高松さん、お願いします。

【高松】　今、コメントを聞いて思いついただけなのですけれども、たしか何年か前も、メルカリの小林茉莉子さんあたりがIGFの本体のほうでセッションを提案して、それが通って、実際にやってみてどうだったかみたいな一連の流れ、苦労したことと、思ったよりうまくいったところ、いかなかったことみたいなのを発表してくださったような気がしていて、今回は特に日本から誰かしら、IGF 2023に向けて発表してほしいというような流れがもしあるのであれば、今回の報告会でそういった呼びかけというか、紹介も含めてするのはよいように思いました。

ただ、たしか、日本からセッション提案をして通っているのは、恐らく横澤さんか総務省の方か、そのあたりぐらいしかないような気がしていて、そういった方たちの、準備的に負担というか、可能なのかといったあたりは、お伺いもしくは御相談なのかなと思った次第です。

以上です。

【山崎】　そこは、そうしましたら、そういう経験がおありの方に片っ端から声をかけて、出ていただけそうな方にお願いするというふうにするということになると思います。

【加藤】　確かに、小林さんはそういう、実際にパワーポイントを使ってこういうふうにやったというお話をされたのは、とても参考になりましたね。

【山崎】　そうすると、たしかそのときの録画が残っていて公開されていれば、それを見てくださいというのもありかもしれないですね。

【加藤】　もし時間があれば、小林さんにまたやっていただくか。

【山崎】　そうですね、また。お忙しいようであれば質疑応答だけでも出ていただいて、発表は前回のビデオでもいいのかもしれませんが。

【加藤】　前村さん、先日のInternet Weekのときも、小林さんは何となくそういうのを、たたき台になって御説明されていましたよね。

【前村】　そうですよね。

【加藤】　小林さんは非常に、APrIGFにも参加されたりして、御経験があるかなと思いますね。そういう意味でいうと、望月さんとか横澤さんが参加されたのと、昔はもう、私も毎年、何かワークショップをやったのですが、もう大分古い時代のやり方なので、最近やられている方がいいのかなと思いますけれども。

西潟さん、よろしくお願いします。

【西潟】　こんばんは。皆さん、お疲れさまです。

報告会というイベントに何を期待するかだと思われますけれども、活発化チームとして、この活発化チームに関わっている方という言い方も含めて、この活発化チームからIGFでワークショップな

り、コマを取って仕切ってやろうと。今までは、あまり日本からはこれまでなかったのですが、せっかく日本で開催するのだから、（活発化チームが何かを）やるんだというアジェンダを持って報告会をやられるのであれば、今ここで何名かの方がおっしゃったようなプログラムで良いだと思います。他方、先ほどどなたかおっしゃったように、飯田さんの例なり望月さんの例なり、あるいは私も総務省の帽子ではないですけど、セッションをやったことがありますけど、そういう場合って実際のところ選考において何らかの下駄を履いているんです。そういう意味では、IGFのセッションで採択されるというのはそもそも相当ハードルが高いです。私の場合は提案者がOECD（IO＝と向こうでは言っていますが、internationalあるいはintergovernmental organization）ということで、数は限られているものの、ほかの一般の提案者より通りやすいんです。数は限られていますけど。例えばOECDで１セッションですよ、みたいなものなんですけど、OECDの中で調整できていれば、その１つは確実に採択されるというような話がなくはないんですよね。

だから、ここの部分、ちょっと、もし今やり方が違ったら、河内さん、仰ってください。ただ、私のときはそういう印象を持ってやっていたというところです。逆の言い方をしますと、実際に去年エチオピアまで行って参加された方がリアルに見てきたものだけでも、これだけのパネルの方、パネルディスカッションをするにしても、単に順番で順繰りに発言するにしてもそうですけど、お話しいただければ、バラエティーにも富んだ、それぞれの観点からのインプットというのは頂けると思いますし、それはそれで1つの報告会にもるのでしょうが、先ほどどなたかおっしゃったような、セッションの取り方とか、そういった観点からすると、ちょっと違うような気もいたしております。

そういった意味では、せっかく3時間、平日で昼間に開催するというのであれば、ある程度、何をやりますという、内輪の会とはいえど、フォーカスみたいなものがしっかりあったほうが良いという気がいたしました。これは感想として申し上げます。また、それについて引き続き、この場で議論を深めていければと思います。

ひとまず、コメントは以上です。ありがとうございます。

【加藤】　ありがとうございます。すごく大事なことだと思います。会の位置づけ。まあ、私などはやっぱり報告会ということで、参加された方が、自分が持っていた印象というのを、自分が御覧になった目で、それぞれが発表していただくということが1つと、それを通じて、活発化チームがやるということもあって、次につなげられるように、こういうふうに参加するといいとか、こういうふうに参加してほしいとか、いろいろそういう参考になるような報告会になればいいなと思うのですが、何か皆さん、御意見はありますでしょうか。

ちなみに山崎さん、名前を出していただいた方の中で、日程的にオーケーという、アンケートに答えていただいた方はどなたでしょうかね、今のところ。

【山崎】　活発化チームのメンバーということですので、前村、堀田さん、立石さん、高松さん、あと飯田さんですかね。

【加藤】　は一応、日程的にはオーケーなんですね、今のところ。

【山崎】　そのはずですね。

【加藤】　あと、また「事務局または河内さん」ということで書かれているので、全体概要というか、何かコメントは河内さんなり事務局も入っているという感じですね、今のところ。そうすると、

まあ、5人……。

【山崎】　まだ河内さんに打診はしていないので、これからですけれども。何かしらあったらよいかと。

【河内】　言っていないんですけど、全体概要が要るかというと、ちょっと微妙なんですけど。

【加藤】　そうですね。分かりました。

【山崎】　丸部分だけとかでも構いませんので、部分的にというのもありです。

【加藤】　そうすると、全体概要の部分プラス、飯田、高松、立石、堀田、前村で、5人の方はいらっしゃるので、それなりのパネルにはなると。あと、八田さんと小宮山さんに打診をするということで、大体、主な参加者は期待できるという状況ですね、今。

【山崎】　はい。

【加藤】　そうすると、今の西潟課長のコメントに関連して、できれば今いらっしゃる前村さんや高松さん、今、この会に出ていらっしゃる、ほかにどなたが出ていらっしゃるかあれですけれども、自分はこういう感じのことをやって、こういうことをやってみたいという、何か御意見はありますか。この会でこういうことを報告しようと思っているみたいな、何かそういう御意見はありますでしょうかね。

急に振って申し訳ないですけれども、高松さん、前村さん、いかがですか。

【前村】　イメージとしては、ちょっと今回は私、全体、いろんなセッションの要約をするというお仕事を頂いている都合上、結構、満遍なく見たりもしたのですが、その中でも自分が追っているテーマ、フラグメンテーションというのは、ちょうど2022年中、ずっと考えてお話、登壇もしていたようなところだったので、そのようなテーマで、こういう感じでしたかねというふうな印象をお話しするのかなと思いました。それぐらいの、ちょっとこれを見て、多分出るのだろうなと思った上では、どういう役回りになるかといったら、そういう辺かなという気がします。

あるいは、要は現地に乗り込んで何をやったかによって、その経験を言うという話ですから、そういったばらけたセッションの、ばらけたなりのそれぞれのセグメントで、こういう感じで何かやり口が違って面白かったよねという話もできるのかもしれないなという感じですけど。すみません。何か当たり前のことをお話ししまして。

【加藤】　とんでもないです。そういう意味で、全体概要といいますか、今回はアフリカからの人数が多くてこんなイメージだったとか、過去、前村さんはほとんどのIGFに出られているので。

【前村】　いや、実はそんなに出ていないですよ。半分ぐらい。

【加藤】　そういうのと比較して、今回こんな感じだったとかというようなことも触れていただける感じですかね。

【前村】　そうですね。過去に山崎が、サマリーレポートのあたりから引っ張ってきたようなことでやっていたこともあるかもしれないのですけれども、そういうのを担当させていただいたほうがいいですね。担当できると思います。

【加藤】　なるほど。それプラス、今、フラグメンテーションのことについてはということで、ち

ょっと両方カバーしていただく感じですかね。

【前村】　そうですね。

【加藤】　そうすると、全体概要的なことは、場合によっては、前村さんがそういう形でスタートしていただいて、まずは概要というよりは、前村さんが最初にスタートしていただく感じでもいいですかね。会のスタートのイメージとしては。

【前村】　いいと思います。河内さん、MAGから見た景色というのはとても重要だと思いますので、河内さんにはもう、MAGから見た景色を話していただくということでも十分いいと思いますし。

【加藤】　では、そういう順番みたいなイメージにして、あとはここに書かれたような方々が、それぞれ、かなりテーマを持たれている方がいらっしゃると思うのですが、立石さん、今、参加されていますか、今日は。私はちょっと名前を言わなかったのですが、今、聞いていらっしゃらないですかね。

【山崎】　立石さん、今日は出席なさっていませんね。

【加藤】　されていないですね。今日の……。

【前村】　さっきはいらっしゃいましたね。

【加藤】　さっきのタスクフォースのほうはお出になったのですが。

高松さん、振ってしまって申し訳ないのですが、高松さんはどんなイメージの御報告をしていただけるという感じでしょうか。

【高松】　今段階ではちょっとまだ、皆さんがどういったところを取り上げるのかなみたいなのも様子を見ながら考えています。

【加藤】　特に興味を持ってここを聞いたとか、その辺から入るのか、全体的な印象を、やはり、そういう意味では高松さんが一番回数をたくさん出られているかもしれないので、そういう意味のところをさらにサポートしていただくことも付け加えて考えていただくか。その辺はいかがでしょうかね。

【高松】　全体的にこんな印象だったというのは、いずれにせよ入れようかなとは思っていて、その中でも特に印象に残ったテーマというような報告になるんじゃないかなとは思っています。

【加藤】　ありがとうございます。

【高松】　あと、ちょっと別の人で、2月9日に決めるときの調整したメンバーを見ていたんですけど、小宮山さんは多分、丸とつけていらっしゃったので。ですよね。

【加藤】　そうですか。失礼しました。

【高松】　御本人に一度、確認したほうがよいかな、なのですが、もしかしたら何か頂けるのかなと思います。以上です。

【加藤】　分かりました。小宮山さんは当然、何回もお出になっているから、そういうコメントも頂けるでしょうが、やっぱり御自分の御専門の分野の突っ込んだ話も伺えるといいなというイメージはありますけどね。

ほかに皆さん、何か会の目的とか、いろんな話が今ごちゃ混ぜにはなっていますけれども、何かコメントとか御意見はありますか。

【前村】　堀田さんがいらっしゃっているので、堀田さんがお話をなさるかお伺いしたいなと思います。

【加藤】　堀田さんもお出になっていますか。失礼しました。お名前を拝見できなかったので、高松さんばかりに行ってしまいました。堀田さん、お願いします。

【堀田】　堀田です。遅れて入りました。

ちょっと、チャットには書いたんですけど、この日は基本的にバツで、ただ10分とか20分だったら時間はつくれると思いますので、何かしゃべりたいと思います。それで、実は今回、ccTLDレジストリの立場が、もともと私の仕事がそれなので、一旦ですけど、（IGFへ参加する）ccTLDレジストリがどんどん減ってきていて、これは何でだろうというのは、前からも時々話しているんです。興味がどんどんやっぱりヒューマンファクターのほうに移っているみたいな話は、それはそれでしたいなと思っています。つまりインフラではなくて、そっちに移っているという話をしたいなと思っていて。

まあ、その関連で、レギュレーションが、クロスボーダーのレギュレーションとか、レジストレーションですか、法制化をどうするのかというあたりに、だんだん私の興味が移ってきているんです。それに関するセッションが、私としてどう面白かったかみたいな話はしてもいいのかなという感じでいます。

以上です。

【加藤】　ありがとうございます。ちなみに堀田さんから御覧になって、インフラの話が少なくなっているというのは、それでccTLDの参加が少なくなってしまっているということは仕方がないんですけどね。IGFは、どんどんそういうヒューマンファクターに移っていくべきなのか、それとももう一回、インフラの話をもっと盛り上げていくべきなのか。その辺はどう思われます？　これは実はタスクフォースのほうでも、インフラの話をもっと、技術者も参加して強調していくべきではないかという御意見が結構あったのですけれども、その辺はいかがですかね。

【堀田】　議論に参加する人間、特に現地で参加する人間が減っているというのは、ある意味、適切な方向性なのだろうなとは思います。ただ、必ずこういうのは揺り戻しがあるんですね。揺り戻しというのは、インフラをどうgovernするかという意味よりも、インフラで、では何ができるのか、何を望まれているのかという観点でやっぱり見なくてはいけないので、現地に行かないとしても、オンラインで状況を見ているとか、オンラインではなくて事後で状況を知るとか、そういう観点では、やっぱりインターネットガバナンスに関して、インフラ屋も、もう俺たちの時代は終わりだ、私たちで終わりだということではないと考えています。

【加藤】　ありがとうございます。前村さん、この辺はちょっと、タスクフォースの雰囲気とうまく調整したほうがいいような気がします。

西潟さん、手を挙げていただいています。よろしくお願いします。

【西潟】　今、堀田さんのお話をとても興味深く聞いていたので、ちょっと質問させてください。

決してインフラ屋が、あるいはccTLDを含めてですけど、時代が終わるということでは決してないと、データ通信課長としても思っているのですが、他方で、私の個人の印象ではあるのですが、はっきり私の印象として残っているものは、IGFにおけるccTLDの時代は終わっていますよね、多分。というのは、ccTLDの方のほうがIGFを見限っているという意味なんですけど、そういう感じをお受けになられたかどうか。特に現地にいらっしゃっていた堀田さんが、どういうふうにお考え、あるいはお感じになられたのか、シェアいただけるとありがたいです。

【堀田】　堀田です。西潟さんがおっしゃったように、見限っているというのは、100％捨てたという意味ではなくて、少なくとも今の方向性からすると、自分の力の9割、8割をかけて戦う主戦場では今はなくなってきたなという感覚で、ccTLDたちは捉えていると思いますね。極端に言うと、13年ぐらい前、アテネの頃とかは、100人ぐらいccTLDの人間がいたんですけど、今回は、私を含めて、たしか4人ぐらいしか来ていない。オンラインでもそんなに出ていないという状況でしたね。それは、見限っているからではなくて、今は、現時点では、tentativeかもしれないけど、主戦場ではなくなっているという感覚だと思います。

【前村】　前村ですけれども、確かに今、堀田さんがおっしゃった、西潟さんが御指摘なさったことは、そういう感じかなというのは分かりますね。それで、タスクフォースで技術の基盤がね、みたいな話をするときには、あまりidentifier（識別子）という方向まではいかなくて、技術基盤って、例えばCDNであったりクラウドであったりみたいなものだったり、アクセスで例えばABEMAの話などというのは、どうやって映像を視聴者に届けるかみたいな話なわけで、何かそういうところの新しい機軸、技術の変質を見ているタイミングなんだよね、みたいなところを、IGFというところで議論するというのが必要なのではないかとか、そういうところなんですよね。技術ネタはIGFじゃなくていいじゃん、ではなくて、技術ネタだからこそIGFでやるべきという時代になってきたのではないのかというふうな方向で捉えています。これはこれで、また別の話ですね。cc(TLD)が今、IGFではないよねという話とはちょっと違うことだと思って、考えていただけたらいいなと思います。

【加藤】　西潟さん、お願いします。

【西潟】　前村さんも堀田さんもありがとうございます。

そういった意味では、逆に言うと、今日、河内さんがいらっしゃるので、MAGの観点から、そういった状況をどういうふうに御覧になっているのだろうというのをお聞きしたい。というのは、今、前村さんがいみじくも仰ったとおりで、私がまさにデータ通信課に来てから、IGFをデータ通信課の立場から見るようになったときに、無い議論というのはそっちなんです。つまり、もともと私のいいかげんな理解としてざっくばらんに言えばですけど、IGFができたときって、そもそもWSISがあって、デジタルディバイド、南北のディバイドの問題があって、そこは最初、技術で解決していこうという話が結構ウエートとしてにあったはずなんです。いつの間にか、そういう話が全く無くなり、一家言がある人たちの言いっ放しの会合の要素のほうが強くなっている中で、かつ、これは国際連合のイベントでもあるので、しようがないというか、逆にそのルールにも、ルールというか作法に近い話ですけど、従っていかないといけない部分もありますが、パネリストのダイバーシティーだったりジェンダーのダイバーシティーだったりエリアのダイバーシティーだったり、いろんなことを考えていくと、私が運営者でもそっちのほうのベクトルに行かざるを得ないだろう部分は個人的に感じているんですけど、逆に、これも支障ない範囲でお願いできればと思いますけど、MAGでは

そういったところについて議論をされたことがあるのか、あるいはまさにthematicな、テーマを決めていく中での議論などもそうだと思うのですけれども、あるいはセッション、テーマを決めた後での個別のワークショップの選別のときなどもそうだと思うのですけれども、そういったバランスなど配慮されているのかどうかとかいうところの、平たく言うと内幕について、せっかくいらっしゃった機会で、振ってしまって恐縮なのですけれども、河内さんのほうから少しインプットいただけると、報告会のコマ決めもそうですし、今後の活発化チームのメンバーとしての、それぞれの思いの持っていき方といいますか、そういうものにも役に立つものだと思うので、お願いできればと思いました。すみません。振ってしまいました。

【河内】　私、MAGになってまだ1年しかたっていなくて、実際、フィジカルな会議には1回しか出ていないので、ちゃんと分かっていないとは思うんですけど、1回、ジュネーブの会議に出たときに、そのときはワークショップを、要するに提案が二百幾つあった中から七十幾つ選ばなくてはいけないというときだったんですけど、はっきり言って、ワークショップの提案者とか、どこの国とか、どういう人がスピーカーとか、一応書いてありますけど、ダイバーシティーが非常に重視されているので、いろんな国だったり地域だったりというところからスピーカーがなるべく入っているほうが有利とかというのは、もともとみんな分かっている前提でやっているので、ただ、トピックというか、そのセッションの中身が、特にある地域、例えばアフリカのある地域だったりすると、どうしてもその地域の人たち、スピーカーが多かったりすることはあるんですよね。なので、その辺はそんなにみんな、このセッションはあまりにも、この国の人が多過ぎるからよくないとか、そういうことはあまり誰も言っていなかったと思うんです。それよりも、やっぱり中身についていろいろ一応、提案書の中に書いてあるので、中身をそれなりに読んで、この中身は本当にこれでいいのかとか、これで大丈夫かとか、そういうところはよく見ていたので、そうですね、私はあまり経験が長くないのであれですけど、言いっ放しでというのは、多分よく知っている方は、もう出してくる団体とか、この人はいつもこれをやってくるけどとか、そういうのはあるのだとは思うんですけど、私はそこまでちょっと分からないですが、そういうのを知っている人は、結構その辺はチェックしていたのではないかとは思うのでね。

ただ、MAGのメンバーを見ていただいても分かると思うんですけど、圧倒的に、こういう言い方はあまりよくないかもしれないですけど、途上国とか、あとアフリカの方とかが多いんですよね。どうしても、そういう人たちの意見が強くなりがちなところはあって、それは、ある、こんなことを言うとあれですけど、先進国の今のMAGのメンバーの人が、その辺はちょっと気をつけないといけないと。そっちの意見にばかり引っ張られるのはよくないみたいなことをちょっと言っていて、やっぱりそういうことを考えるんだなと思った覚えがあります。

なので、例えばMAGというのは、40人だったかな、40人いるうち、多分、本当にこれも言い方が悪いですけど、先進国のメンバーって多分、半分以下だと思うんです。3分の1、いるかいないかとかだと思うんです。なので、その中で、別に途上国の人が悪いなどというわけではないんですけど、どうしてもバランス感覚がいま一歩な人がいたりするので、そこを、バランスをうまく取っていくべきというふうに、一部の分かっている先進国のメンバーが、ちょっと裏で一生懸命、根回しというほどでもないかもしれないですけど、みんなで話をしたりしているような場面もあったという記憶があります。

それでお答えになっていますかね。

【西潟】　河内さん、ありがとうございます。

いや、私にとってはとても有益なステートメントを幾つか頂いたので、ありがとうございます。その意味では、先ほど私が申し上げた、まさにセッションを取りにいくのかどうかという話との関係で、取りにいくとなると、やっぱりゲームの構造を知らなくてはいけなくてという話が私の問題意識としてあったので、すみません、いろいろなむちゃ振りもさせていただきました。

そういった意味では、先ほど冒頭におっしゃった、240件の提案から70件を選ぶなどというのは、私の知っている限り、多分、倍率としては低いほうで、それはエチオピアだったから、コロナだったからという、ダブルもあると考えますけど、そういう意味では、日本はひょっとすると、とんでもない倍率になる可能性があって、みんな京都に行きたいというのもあると思うんです。となると、ますます、実は日本でホストするのにも関わらず相当ハードルが上がってしまっているところに今回当たる可能性もあったりするので、もし活発化チームとして、その活動の1つのアジェンダの中に、ワークショップあるいは活発化チームとしてではなくて、活発化チームにおられるメンバーの方の中でそういうことをお考えになっていらっしゃる方もいるかもしれないというのも含めてですけれども、そういった意味で、まずゲームのルールというのははっきり押さえておかなくてはいけないなという意味で、私の中では、Civil Societyの言いっぱなしの部分の別の意味の背景としての、今、このMAGに関してのメンバーシップの構成ですよね。とても理解できるところがあって、多分、発言録が公開される会議で、これ以上の言い方は多分できないと思うのですけれども、その部分においては、河内さんに、とても上手に言っていただいたと思います。

なので、そういう意味で、河内さんからもいろいろ頂いたのも含めて、この報告会の持ち方というのが、まさにワークショップを持つという要素を含むのであれば大分話が変わってきますし、そうではなくて、そもそも、この活発化チームの中におられる方は、どちらかというと国際会議という枠では一通り以上の、私なんかよりも多くの経験をお持ちの方のほうが多いのだと思うのだけれども、そういう中で、例えば2022ゆえの何かというものを抽出して京都につなげていくというようなイメージになるのかなとか、そういった中で、せっかくの3時間、お忙しい中で時間を割いてくださる御発表いただく方がおられるなかで、先ほど冒頭で、どういう持ち方をされますかというのを質問させていただいたところでありました。ありがとうございます。

【加藤】　ありがとうございます。西潟さん、河内さんの御説明は大変、多分、今回の報告会の参考になると思うんです。堀田さんに御指摘いただいた、インフラ系が少なくなっているというのは、結構、感じている人も多いようで、タスクフォースではむしろやっぱり、またこういうインフラの重要性というのをテーマとしても出していくべきだという意見が強かったので、多分この中で今言われたような議論をしながら、では京都はどうしようというところに、質疑応答なりパネルディスカッションでつなげていくといいのかなという気がします。西潟さん、そんなイメージでもいいですよね。

【西潟】　もしそういうことが可能であると、とても楽しみです。

【加藤】　そうですよね。その中に、この報告会は基本的には、西潟さんも質疑の形でいろいろとコメントを頂ければと思うので、そういう議論をしていただくといいのかなと思いますが、いかがでしょうか。

【西潟】　いや、私はそういうのも込みで、むしろ自分は行っていないものですから、大変、現地

のことは、飯田は八面六臂以上の活躍を現地でして、余計なものまでもらってしまったと話を聞いていますけど、私はむしろ国内で、あまりリモートでも関与できていなかったので、その部分についてお話を聞きたいというスタンスなのですけれども、その先の部分、先ほど今、堀田さんからもあったインフラの話だったり、「それでいいのかIGF」みたいな問題意識を私は個人的には持っているのですけれども、他方で、イベント自体がそういう方向へ行ってしまっているのだったらしようがないよねと、まさに堀田さんのとても丁寧なすばらしい言い回しを私も今後使うようにいたしますけれども、主戦場ではないということで、ICANNのほうが話が早いよねということなのかもしれませんけど、その部分もあるんでしょうけど、他方で、それはIGFとしては残念なことなんですよね。そういった意味で、IGFが残念になっていることの責任は、本来はIGFの事務局が負えばいい話で、日本政府は知ったことではない話なのかもしれませんけど。我々はホストを致しますし、国連の非常任理事国でもあるのだけれども、少なくともこのイベントは、ただのホストカントリーでしかないわけです。さはさりながら、日本として、あるいは世界からもう普通の平均的な国から比べると相当信頼されている国として、何かやれることがあるというのであれば、そういう方向というのはあるのかな、みたいな問題意識を持っていたので、堀田さんにも大分突っ込んだ質問をさせていただいたところではありますし、そのようなところが、もう一回、9日の本番といいますか、皆さんの御発表を踏まえた形の中で、会合として、そういうのが、より広い形で、いろんな御議論も、その場での議論も含めて、やれるのであればとても有意義な会合になるのかなと思って、楽しみにしております。ありがとうございます。

【加藤】　ありがとうございます。ほかの方、いかがでしょうか。

今のお話は大変いい方向性を示していただいたと思うんです。今、山崎さんにこれを書いていただいていますけれども、流れとして、質疑応答、自由討議というか、パネルディスカッション的な形でパネリストたちに進めていただいて、その中で問題が浮き彫りになってきたら、特別セッションという形がいいのか、この辺の立てつけは、私は自由討議の時間の前半部分で議論をしながら、後半で、だから今度、京都でこういうふうに提案していこうみたいな、そういう流れで、同じ1時間枠の中で前半・後半に分けて振っていくのがいいのかなとも思いますけれども、何かそういう、具体的な提案的な方向性が出てくればいいのかなという気がします。

いかがでしょうか。今日は、できれば大枠のスケジュールを決めて、あと細かいところはメールなり、有志にお願いするという形にしたいと思いますが、ほかに全体の進め方について御意見はありますでしょうか。

【村田】　すみません。村田と申します。

【加藤】　よろしくお願いします。

【村田】　御無沙汰していますという感じなのですけれども、そもそも今回のここのIGF 2022の報告会というのは京都に向けての盛り上げだと思ってはいるのですけれども、2023を日本でやることになった流れだとか、やることの意義というところも入れてもらえるといいのかなと思って、今、聞いていました。一切、その辺の情報というのは私も全然知らなくて、何で日本でやることになったのかなというのと、どうせやることになったんだったら、こういう意義があるよねというのがあると、つなぎやすいかなと思って聞いておりました。コメントです。

【加藤】　ありがとうございます。飯田様はもう参加されているのでしょうか、総務省加藤さん。

まだ、前の会議中でしょうか。

【総務省加藤】　　幹部レクが長引いていて、申し訳ないです。

【加藤】　　分かりました。もし飯田さんがいらっしゃると、報告会プラス、ちょっとそのようなことにも触れていただくということは可能かなと思うんですけどね。日本政府としてこれをホストすることになったというのは、常々、飯田さんが趣旨のようなことをおっしゃって。

【総務省加藤】　　そうですね。飯田がその辺の経緯も、対外的にどう言うかというのはもちろんあるのですが。

【加藤】　　そうですね。

【総務省加藤】　　もちろんありますので、その辺も含めてしゃべれるのではないかなとは思います。

【加藤】　　そうですね。では、どう言うというのはお任せするにしても、そういうことにも少し触れていただいて、参加の方に分かるようにというのをお願いできればと思います。

ありがとうございます。ほかに何かございますでしょうか。

それでは、もう一回、プログラム案の中に戻っていただいて、最初の挨拶を誰かに正式に頼むかというような話ですけれども、これは皆さん、いかがですか。よく、IGFの報告会というかIGFのイベントは、前回、村井先生にビデオ出演いただいたということもありましたけれども、また村井先生とか、そういう方に、最初、オープニングでお願いするのかどうか。これはいかがですかね。

山崎さん、今まで報告会ということでは、こういう挨拶というのは、あまりそこに重きを置いていなかったのでしょうか。

【山崎】　この中に含め忘れているのですけれども、誰が主催するかにもよりまして、前回までは、たしかJPNIC、JAIPAで共催ということにしていたので、JPNICなりJAIPAの担当が。

【加藤】　　の偉い方がやると。

【山崎】　　挨拶するという流れにしていました。

【加藤】　　そういうことですね。

【山崎】　　ただ、今回、主催を誰にするかというのは、まだはっきり決めていなくて。

【加藤】　　そういうことですね。

【山崎】　　事前会合の流れをくむのであれば、活発化チーム自身が主催する。去年までの報告会と同じにするのであれば、JPNICとJAIPAが共同で主催する。どちらもありだと思うのですけれども。だから、2団体共催であれば、それぞれの団体から挨拶でいいのかなと思う反面、チームが主催するのであれば何でもありというか、チームが話していただきたい方に、加藤さんでもいいし、村井さんなりほかの方に依頼するのもありでしょうしというあたりではないかと思います。西潟さんから手が挙がっております。

【加藤】　　西潟さん、お願いします。

【西潟】　　今、山崎さんがおっしゃっていたことに質問なんですけど、そもそも私もひょっとした

ら、この報告会の位置づけ自体、ちょっと勘違いしていたらあれなのですが、来月開く報告会についてだけで言ったときに、これはどこまでオープンでやるんですかというのが質問です。つまり、IGF 2022のイベントのときのように、広く形としてオープンにするとか、あるいは、例えばJPNICの中で、JPRSなどもそうでしょうけど、いろんな角度からインターネットに携わっていらっしゃる方、皆さんも参加、平日ですから、もし日程が合えばという範囲で参加できるような会合なのか、あるいはJAIPAの会員企業の職員の方であればどなたでもというような会合なのか、それとも我々の我々による我々のためのという色が強い会合なのかというと、今のお話、特に主催とかのあれがあるとなると、何か前者っぽいんですけど、その辺は何か共通の認識があったのであれば、私は追いかけます。すみません。どなたか教えてください。

【山崎】　山崎ですけれども、私の理解を申し上げますと、正直、あまりそこまで突き詰めて考えていなかったというのが実情で、でも大分、パブリックに共有するというほうに、だんだんなってきたのかなと思っています。2団体で共催していたということが、ものすごく意味があったというわけではないと思います。この辺、たしか木村さんがJAIPAさんから出席なさっていると思うので、違っていたら御指摘ください。

【加藤】　そうですね。もし木村さんがおいでになれば、突然振って恐縮ですけれども。

【山崎】　木村さんはもう抜けられたみたいですね。村田さんもたしかJAIPA帽子もおありでしたよね。その辺、もし違っているところがあれば。

【村田】　一応、JAIPAには入っていますが、IGFにJAIPAでは出ていないイメージでいたので。何をお答えすればいいですか。

【山崎】　過去がどうかというのは、もはや重要ではないので、チームの皆さんがどうしたいかということによるのだと思いますけれども。

【前村】　前村ですけれども、よろしいでしょうか。

【加藤】　お願いします。

【前村】　あまり、あらかじめ決められていることがあったり、特定の意図があったりはしないのだと思うんです。事前会合というのは、国内IGF年次会合という感じであろうと言って、秋イベントというものはやりましたよね。それで、報告会に関しては、IGF 2022を見に行ったら、やっぱり報告してどんなことがあったか言ったほうがいいよね、などと言いながらやるというのが、一番、率直に、そういう動機というか流れだったと思うのですけれども、やるからにはIGF 2023の動員というのか、関心喚起、参加喚起というところに結びつけないといけないと思うと、フルオープンで、できるだけいろんな方々に聞いていただきたいと思ってやるのでしょうしというところだと思います。それをどういう主催体制でやるのかというのは、その時々の都合とか事情とかによって左右されるということなのではないのかなと思うので、そこは決め方の問題ではあるかなと思うのですが、活発化チームでやりましょうということでもいいでしょうし、いや、今やタスクフォースがあるわけですから、タスクフォースも何らか後援とかにさせてねと言いたくなる可能性もある、などと思いながら聞いていたのですが、それも一番、日本のコミュニティーに対していいメッセージになるようにつくっていくということなのではないのかなと。つまり、是々非々でやればいいのではないのかなと思いました。以上です。

【加藤】　ありがとうございます。私もちょっと頭の隅に、タスクフォースとの関係で、タスクフォースの方々からも参加していただくというか支援していただくルートもあっていいのかなと思います。そういう意味で、これはちょっとタスクフォースの開催のタイミングからして、タスクフォースに、例えばどういう形で参加されますかというのを聞くというのは、ちょっとタイミング的に、前村さん、難しいですね。

【前村】　いや、そうですね。あまり時間がないので、活発化チームが報告会というのを考えていますから、皆さん、御参加くださいぐらいだと思います。

【加藤】　そうですか。共催になるとか後援になるとか、そういうことを正式にうたう必要があるのかどうかということも含めてですね。

【前村】　正式に決めたほうがいいことであれば、メール投票でもすればいいのだと思います。

【加藤】　そうですね。いずれにしても、こういう機会があれば、声をかけ合う関係というのはあったほうがいいのではないかと思いますよね。

【前村】　そうだと思います。

【加藤】　それぞれが勝手にやる、もう一切、声をかけないというのではないと思いますので、その中で、タスクフォースとしても、少なくとも会員の方にも声をかけていただいたり、何らかの形で参加していただいたり、当然、前村さんも全面的に入られているわけですから、そういうのがいいかと思います。

【前村】　そういうことだと思います。

【加藤】　あと、また今年、JPNICさん、JAIPAさんの主催にするか、活発化チーム主催にするかという点に関しては、皆さん、いかがですか。これは御意見がありますでしょうか。作業に関して、山崎さん、どちらかでないと不都合があるとか、何かそういうことはあるのでしょうか。

【山崎】　総務省さんから後援を頂くのであれば、2団体共催のほうがいいというのを、事前イベント（日本インターネットガバナンスフォーラム2022）の初期に議論した覚えがありますけど、別にそれが必要ないというのであれば、特にどちらでも構わないのではないかというところだと思います。

【加藤】　実際、後援いただかなくても、飯田さんを含め、西潟さんも多分、積極的に参加していただくので、その点は大きな問題ではないかもしれないですけど。まあ、秋イベントが、活発化チームが……、過去、活発化チームというのがなくて、正式には比較的最近、スタートしているということも考えると、活発化チームが継続するほうが自然なのですかね。それで、タスクフォースとの関係を強化していくというか。その辺、いかがですかね。

堀田さん、お願いします。

【堀田】　活発化チームがいいと思いますね。JPNIC、JAIPAというと、どうしてもやっぱり会員組織なので、活発化チームというのはオープンですよね。メンバーシップがオープンなので、そっちのほうがいいように思います。

あと、先ほどの、最初の挨拶をどうするかというところも、活発化チームと、あとタスクフォースの副会長とかを呼んで、何かしゃべってもらうとかもありかなと思いながら聞いていました。

以上です。

【加藤】　ありがとうございます。

もし、ほかに御意見がなければ、主催と言ってそれほど意味があるかどうかはあれですけれども、確かに活発化チームが主催というほうが、流れとしては自然なのかなという気はしますけれども、そこはいかがでしょうか。

あと、タスクフォースの副会長で江崎さん。江崎さんは、タスクフォースの副会長という形で、JPNICの理事長というのではなくてということでよろしいんですよね、堀田さん。

【堀田】　そうです。

【加藤】　これは、もし皆さんがよろしければ、時間的に間に合うかどうかとか、そういうのを併せて、最初の御挨拶をお願いできればと思うのですが、皆さんの御意見はいかがですか。ほかに御挨拶に適当な方とか、何か御提案はありますでしょうか。

【前村】　前村ですけれども、まず主催に関しては、活発化チーム、前回の秋イベント……、秋イベントと言わないことにしましたっけ、日本インターネットガバナンスフォーラム2022と同様に、活発化チームということでいいと思います。それを何かに変えるということの利益がそんなにないのかなと、ベネフィットがないのかなと思います。

挨拶に関しては、江崎さんに挨拶していただくというのはとてもいいアイデアだと思いますし、タスクフォースが挨拶に来ますというのも重要だと思うんです。タスクフォースとしても、IGF 2023に向けて、どうぞ皆さん、行こうじゃないですかと言いたいわけですよね。なので、タスクフォースという名前を出すというのは、とてもいいと思います。

また、2022年イベントのときには小野寺次長に御挨拶いただきましたけれども、そういった形で政府からの御挨拶があって、そういうジェスチャーでendorsementいただくということも、とても意味のあることだと思いますので、そういうふうに言っていくと、挨拶はたくさん増やしていけばいいのかという話もあって、それはバランスというのはあるかと思うのですけれども、そんな感じで、みんなで盛り上げていくという感じが出ていくといいんじゃないのかなと思いました。

以上です。

【加藤】　ありがとうございます。今、お2人お名前が出たので、これはぜひ声をかけていただいて、江崎さんには前村さんから言っていただけるんですかね。

あと、日本政府のどなたか。前回（日本インターネットガバナンスフォーラム2022）は急遽、国会があって、局長ではなくて次長で、となりましたが、そういう方でなくてもあれですけれども、どなたかに、もし、本当にもう5分……。これは、場合によってはリモートでもよろしいですよね。

【前村】　いいと思います。

【加藤】　山崎さん、リモートでも。

【山崎】　もちろん、そうですね。

【加藤】　そうですよね。

【山崎】　あと、まだ決まっていないこととして、開催をオンラインのみとするか、前回というか、

日本インターネットガバナンスフォーラム2022と同じようにハイブリッドでやるかということは。

【加藤】　これも決めないといけないですね。私もハイブリッドの頭でいたのであれですけど、ハイブリッド……。

【山崎】　どちらにしても、遠隔参加はありですね。

【加藤】　ありですね。ハイブリッドにすること。この話が出たのであれですけれども、費用とかロジ的に、今、大変という感じですか。

【山崎】　まあ、倍になりますね。

【加藤】　そうですね。

【山崎】　ただ、大変だから楽なほうを選ぶというのもあれですので、皆さんがハイブリッドでやりたいということであれば、もちろん、ぜひ協力したいと思いますけど。

【前村】　もう一つ重要なことは、JPNICとしては予算を組んであるので、出すことは問題があるわけではないということです。

【加藤】　いつもありがとうございます。

もしそれが可能であれば、特に最後の質疑応答とか、今後に向けてというようなところをやる場合に、やっぱり何人かでも会場にいたほうが盛り上がる可能性もあるので、ハイブリッドを前提にということで、今日、御検討いただいてもよろしいですかね。

【前村】　大丈夫だと思います。

【山崎】　我々は大丈夫ですけど、参加者の皆さんから特に異論がなければ、もう日が迫っていますので、まず会場を取りあえず押さえることからやりたいと思います。

【加藤】　ではそういう方向で。高松さん、お願いします。

【高松】　そちらのお話が一段落ついた後と思っていたんですけど、お伝えしたかったことは御挨拶のところで、政府の方とタスクフォースの御挨拶があるというのは、権威のある方の御挨拶が最初にあるとイベントとしての格が上がると思われる方が日本人は多そうなので、そういう意味でもいいのではないかなと思いましたというのが1つと、もしタスクフォースのほうで、江崎さんからお話を頂ける場合なんですけど、江崎さんは様々なところで活躍されていてというので、どの帽子でお話しされているのかを明確にするというのと、あとタスクフォース自体の御紹介というのも、ある程度の時間を割いて行っていただいて、タスクフォース自体の普及というか周知みたいなのもイベントの中でできるとよりよいのかなと思いました。お話を遮ってしまってすみません。

【加藤】　ありがとうございます。そういう意味で、時間をどれぐらい割り振るかというところを、合わせて10分というのか、各自10分ぐらいまでは最大お願いするかという、この辺ですね。少なくとも今のようなことをタスクフォースとして江崎さんにお願いするとすると、多分、5分というわけにいかないですね、これはきっと。

【前村】　そうですね、確かに。

【加藤】　やっぱり10分ぐらいはお願いしていただいてということで。

【前村】　10分ぐらいでお願いします。

【加藤】　そういう意味で、挨拶は最大20分で、できれば日本政府の方は簡単にということでもいいのかもしれないですけど。だけど、その中に、先ほどの、日本として23年を開催する気持ちを伝えていただくとか、そういうこともすごく意味があるかなとも思いますね。

では、こういう方向で、最初の挨拶を誰に依頼するかも大体これで決まったということで。あと何か、御挨拶に関して御意見はありますか。

もしなければ、次の、IGFとは何か。このニューカマー向けのIGFの説明をする件。これは、ビデオをつくるとか、パワーポイントをまとめて御説明いただくという点。これは、前村さん、山崎さん、いかがですかね。

【前村】　前村でございます。前回の会合でお引き受けして、やらざるを得ないというのが一番大きいですね。いや、むしろ前向きに、そういうふうな、意義深いというのか、きちんと訴求力のあるものをつくりたいなと思っていたのですけれども、それに体がついていきませんで、今のところ、まだ手がついておりません。そうはいっても、2月9日なので、できるだけ早いうちに、スライドを来週の頭ぐらいにはお見せできるようにしたいなという心積もりではまたおりますが、これはちょっと今の気持ちなので、この気持ちを強く持って頑張りたいと思います。失礼しました。

【加藤】　ありがとうございます。そういう意味では、では今日の時点では、これをやるということで、時間的には30分の配分で、前村さん、よろしいですか。20分ぐらいとか、最長30分という感じでよろしいですか。

【前村】　そんな感じだと思います。

【加藤】　では、ニューカマー向けということではありますけど、これはいろんな形で使えるので、ぜひ使い回しができるものを前提にお願いしたいと思います。

そういう意味では、事前にも見ていただいてもいいですけど、実際その場でやっていただくという前提で、基本は報告会中のプログラムとするということかなと思います。

次の御報告の各自ですけれども、全体、フラグメン……。

【西潟】　加藤さん、すみません。

【加藤】　西潟さん、お願いします。

【西潟】　私、途中で落ちていたら申し訳なかったですけど、ニューカマーというのは誰をイメージされているのですか。つまり、この前の昨年10月の2022の日本イベントのように、初めて、IGF、何だろう？と来てくださる方をイメージされてのニューカマーなのか。つまり、少なくとも活発化チームのメンバーの方だと、多分もうニューカマーというのは失礼な方のほうが多くなってきて、今日も久しぶりに来てくださったという方もいらっしゃるみたいですけれども、そういう方も含めて、思い出しも含めてというニューカマーというのはなくはないと思うのですけれども、他方で30分かけてプログラムとして作るとなると、どなた宛てなのかなと。私などは逆に、例えばのイメージで言うと、木村さんがもう出られてしまったので、欠席裁判の意図はないのですが、例えばJAIPAの会員で、こっちの活発化チームであったり、IGFには今まで出たことがないのだけれども、JAIPAではアクティブに活動されていて、ネットワークの運用をやっていたりというような方は、例

えば会合に参加されるような方でたくさんいらっしゃるわけですね。そのような方をここに、例えばの話で、JAIPAでしっかり広報していただいて、2月9日に来ていただくというようなオペレーションとセットであれば、この30分は非常に必要な30分だと思う反面、逆に冒頭のタスクフォースとしての江崎さんのお話であったりすると、少し閉じたコミュニティー的なイメージもなくはない中で、どなたをイメージされるのかによって、また前村さんのスライドの中身も変わってくるのかなというのもあるので、その辺は、実際は蓋を開けてみたらこうだったというのはあるにせよ、意図というか意志というか、そういうものというのは、少し同じものを共有するプロセスというのはあってもいいのかなと思って質問いたしました。ありがとうございます。

【加藤】　前村さん、これはどんな意図を持ってつくろうと。今、確かに御質問のとおり、この会で、IGFについてほとんど知らないという方がどれぐらい集まるかによって、この30分の使い方が変わってくるわけですよね。どちらでいきますかね。

【前村】　ちょっと話が結構いろんな側面があると思うのですけれども、そうすると、報告会にどうやって集客するのかみたいなところから入っていきますのでね。それで、私が思っていたことは、ニューカマーが見てもセッションの内容が分かるような、枕になるIGFの前提知識みたいなものをつくらないといけないと。それに当たっては、それが魅力的なものにならなくてはいけない。みんなが、おお、そうか、行きたいなと思ってくれるようなものをつくらないといけないみたいなレベルで考えていまして、それ以上のことをあまり考えていないということです。なので、ニューカマーの方々は来てくださるという前提で、つくり手としてはつくろうとしているのですが、来ていただくための方策というのが十分取れるか、取られているかというのは、また別の問題かもしれないなと思いました。

【加藤】　前村さんにドラフトしていただく前提で、個々、私などのイメージを申し上げると、IGFとはこうですよというスライドを何枚か、全体的なものを作っていただいて、それを前村さんがその日、非常に、全くIGFのことを知らない方が多いなというか、いや、もう大体いつものメンバーだなというかによって、どこをどれぐらい強調するかを、この日、説明の強弱を変えていただくのがいいのかなと。時間としても、絶対30分ずっとやらないといけないのではなくて、20分やれば十分だという感じにするのか。前、実積先生が言われたのは、やっぱり全く知らない人に対して勧誘するためのマニュアル的なものが何かないと、声もかけられないというところから、この話はスタートしているのですが。

【前村】　そうですね。

【加藤】　それはそれで、同じパワーポイントを使っても、細かく説明する場合と、やり方があると思うんですよね。この日は、ある程度知っている人がいて、7割方の人は知っていると思ったら、飛ばすところは飛ばす。だけど、もう一回おさらいですという感じで、時間は30分かけないで少し短めでやっていただくというのを、臨機応変に考えていただくのがいいのかなと思いますが、いかがでしょうか。

【前村】　そういうふうに対処しないといけないだろうなと納得しております。

【加藤】　西潟さん、ちょっと曖昧なあれですけど、そんなイメージでよろしいでしょうかね。これは、今の時点で決め打ちできなくて、希望としては、本当に知らないけど、ぜひ聞きたいと思う人が、一人でも二人でも、さっき言われたJAIPAさんの会員で、話は聞いてたけど何か知らない、一

回聞いてみようという方がいらっしゃるといいなということもあるので、用意はある程度していただくということで、西潟さん、いかがでしょうか。

【西潟】　それで良いと思います。前村さんもそういう意味で共犯になっていただかないのですが、1月、JANOGでBoFをやりますよね。あそこでは確実に、動員とまでは言わないけど、しっかり宣伝しないといけないと思います。

【前村】　　そうですね。

【西潟】　　それで、会員組織という意味ではJAIPAのほうは、今日の議論の中身を、木村さんなり立石さんなり、お伝えしていくプロセスが必要になると思います。その上でであれば、それこそ、この議論の入り口の実積先生のお話ともリンクする話として、ニューカマーがたくさん来そうだよねと。JANOGでアクティブな人がIGFをしているかといったら、結構ネガティブですよねと。

【前村】　　そうですね。

【西潟】　　でも、あの人たちの知見からすれば、多分、興味を持っていただければ、入ってくる人は入ってきますよね、みたいな勝手な期待もあったりもするので、ということであれば、御専門の領域は別途として、そういうのも含めていくと、やっぱり何かしら、こういったエントリーモードの用意があるにこしたことはないので、この機会にぜひというのは、私もそこは全然、入り口の異論はなくて、むしろ、今日ここにおられるメンバーからすると、直接は前村さんとJANOGで共犯するぐらいしかないのですけれども、ほかの機会も使って、むしろ動員というか宣伝もしていかなきゃというのが表裏なのかなと思いました。

【加藤】　　ありがとうございます。そういう意味で、いいポイントを言っていただいて。JANOGで全く御存じない方に説明をする前提のものを頭につくっていただいて、パワーポイントを作っていただいて、当日はここにあるように、臨機応変に、参加者のお名前を拝見しながら長さや強弱を変えていただくということで、前村さん、お願いできますでしょうか。

【前村】　　承知しました。

【加藤】　　それでは、プログラムの次のところですが、全体の概要をまず前村さんがやっていただいて、順番としては飯田さんでよろしいんですかね。飯田さん、河内さんが、全体的なことも含めてお話を頂いた上で、あと順番は、今、特に決める必要はないのかもしれませんが、いろんな方に御報告いただくと。それで、堀田さんからは、さっき言われたような問題提起があって、それで次の質疑応答、自由討議と、その後半は、だから京都で何をやるんだ、みたいな提案的なことがあるといいと。「それでいいのかIGF」と書くのがいいのか。そのほうが面白いかもしれないですけれども、そういう方向に振っていただくということで。

　これは、後半の部分のどなたか、これはMCなりモデレーターなりをお願いしたほうがいいような気がするんですけど、いかがでしょうか。何か、そこも御提案がありますか。ボランティアがあればもっとありがたいですけれども。パネリストが七、八人、お出になっているので、その中からお1人、モデレーターとして引き継いでいただくという手もあるかもしれないですけれども。

【山崎】　　山崎ですけど、よろしいですか。

　欠席裁判になってしまって申し訳ないのですけれども、参加者とは別にモデレーターがいたほう

が、議論がスムーズに進むような気がしていて、前回、秋の事前会合のときに、上村さんがモデレーターですごくスムーズにいっていたので、上村さんにまずはお願いしてみると。都合が合わないとかで断られたら、それで第2希望は誰かというと、ちょっとまだ思い浮かばないんですけど、第1希望、上村さんというのはいかがでしょうかと提案します。

【加藤】　高松さん、お願いします。

【高松】　特別セッションのところのモデレーターの議論という理解でよいでしょうか。

【山崎】　特別セッションは、その前の自由討議のところとがっちゃんこして。

【高松】　なるほど。

【山崎】　議論全般1時間という感じになりそうです。

【加藤】　そうですね。モデレーターとして、それでは次に自由に討議、パネルディスカッションしていただきますとやって、後半からは特別セッション的な方向に、それではという感じでやっていただくという感じですね。

【高松】　モデレーターは、イベント自体の最終的な結論等をどの辺りに設定するかというあたりとの兼ね合いだとは思うんですけど。1月末のテーマインプットみたいなタイミングには間に合わないというのは、今回、2月のイベントだと何か物として出していったほうがいい。提案を、では具体的に次の段階へこういうふうに持っていくのがいいと、何となく持っていきたいという話が、例えばタスクフォースのほうであるのであれば、その辺りも踏まえて、かつ活発化チームのほうも仕切る方がモデレーターをされたほうが、うまく次の2023年のこれからにつながるようなまとめ方ができるのではないかなと思いました。

あと単純に、もしIGFセッション提案体験談とか新しい話が入って、全体で60分というのが、自由討議の時間として短そうという話になるのであれば、個人の発表は1人8分とか、もう少し縮めてもいいんじゃないかなと個人的には思いました。10分発表8本というのは、なかなか聞いている側はどう思うのだろうというのが少し気にはなるので、お願いします。

以上です。

【山崎】　山崎ですけれども、10分というのは仮でして、皆さんが10分きっちり話すとは思っていなくて、人によっては5分で済む方もいらっしゃるでしょうしというところですね。

【高松】　ありがとうございます。

【山崎】　なので、最大10分ぐらいでお考えいただければ。

【高松】　了解しました。ありがとうございます。

【山崎】　加藤さんが一瞬、離席なさっているということで、ほかに御質問や御意見はございませんでしょうか。

あと、先ほどMCの話が出ましたけど、モデレーターとは別に、このイベント全体の司会の方がいらっしゃったほうがいいと思うんですけど、どなたか手を挙げられませんか。

加藤さん、今、全体の司会を募ったんですけど、まだどなたからも手が挙がっていないという状況です。

【加藤】　全体の司会ですか。

【山崎】　では、この場であまり時間を使うのはあれなので、また案を、ちょっと候補を私のほうで考えて、直接お願いしてみるという進め方にさせていただければと思います。

【加藤】　高松さんによくお願いしてきたのですが、今回、パネリストの一人であるということもあるので、では、ちょっとそれは検討していただくということで。有力候補の山崎さんにもちょっと御検討いただくと。

すみません。今、一瞬離席したのですが、プログラム案は大体、今ので固まりましたかね。モデレーターは上村さんという話、御相談するということで。

あと最後……。すみません、西潟さん。

【西潟】　質問なんですけど、これはちょっとメモが山崎さんから入れてくださっているのとごっちゃになっているから、後でまた整理していただいた上でということなのかもしれないのですが、流れの順番として、今、候補で入っている方はまず8人でしたか。今のアイデアだと最大10分という話を山崎さんから頂きましたけど、1人10分ずつお話を頂いた上で、質疑応答がありますよね。そこで、このスピーカーの方々をパネルディスカッションみたいなやつで束ねたらどうかみたいな提案もありましたけど、多分、全員を束ねてしまうとまたモデレーターが大変になると思われますから、多分ここは順番にお話いただくのかなと個人的には思っています。これは最終的にはみんなで決めることだと思いますので、事後でコメントさせていただきます。

それで、発表の時間に対して、特別セッションの話はさておくとして、質疑応答、自由討議は、今の段階でどっちにどう転がる、つまり盛り上がるのか盛り上がらないのかという意味ですけど、分からない部分もあるのだけれども、30分で足りるかどうかという話が1つ目と、他方で全体で3時間という枠の中で、この特別セッションというほうはモデレーターをつけるとすれば、確実に、モデレーターがどなたになるかはさておきとして、いわゆるシナリオといいますか、作りをすれば、逆に言うと、ここに今は30分と書いていますけど、30分なら30分の話としてはあるのでしょうけれども、逆に、モデレーターの方は何をモデレートすることになるのかみたいなところがもう少しクリアにならないと、多分、特に欠席裁判で現状、上村さんということで、私はこのこと自体には異論はないんですけど、上村さんのことを考えると、逆に、もう少しそこをクリアにしてからお渡ししないと、多分、スケジュールが空いていればお受けいただけるような方ではあろうかと勝手に思っていますけど、他方で困惑されるのかなという気もいたしましたので、ここはもう少し深めてからお渡しすべきかなと思いましたが、いかがでしょうか。

【加藤】　ありがとうございます。私は、先ほどお話もしたのですが、モデレーターとして、これは書き方が今、質疑応答、特別セッション、2つになっていますけど、この30分、30分を1つにして、1時間で質疑応答と今後の提言というか、IGFでもいいですけれども、そういうふうにして、前半は主にパネルディスカッション、それぞれ出てきたことの議論をすると。そして、後半として、それでは京都に向けて提言とか、新しい提案とか、何かそういうことにするのはどうかなと思ったんですけど、いかがでしょうか。

【西潟】　西潟です。それは全てがうまく1つのメークセンスするご提案だと思いますし、逆にその流れ次第では、今、メモでも頂いている小林さんの出番というのが出てくるのか出てこないのか

ということにもなります。

【加藤】　そうですね。

【西潟】　そういう形になるものと理解しました。

【加藤】　質疑応答の中にうまく、小林さんのIGFのセッション提案みたいなものを、2023年に向けた提言の議論の頭で、このようなことをやるんですというのを簡単に入れていただくと、では、さっき質疑応答でも出たこういう問題で、実際、提案してみるといいよねというふうに、モデレーターがうまくまとめていただけると、今日の報告会をやったことの意味が出てくるのかなという気がするんですけどね。

【西潟】　そこは私も同意します。ありがとうございます。

【加藤】　ありがとうございます。どんどん山崎さん、整理していただいて。こういうイメージです。

それで、御指摘のとおり、時間配分は、一応10本というのはマックス10分ということで、5分で終わる方は5分でもいいのかなというふうにお伝えいただいて、一般的にはこういうので10分と言うと、15分になってしまう人もいるので、10分が上限です的に言って、質疑応答とか60分の部分を、ある程度、余裕を持たせたほうがいいのかなという気はするんです。特に、今のIGFセッションの提案体験の小林さんの部分も入れるなどということになると、若干、後半でも時間を、もし前半で時間がもう余ってしまったら、後半で時間を稼げる部分もあるのかなという気がするのですけれども。

【山崎】　山崎ですけれども、そういう意味では、先ほど高松さんがおっしゃったのはそのとおりだと思いますので、もう10分と言わずに5分と言ってしまって、延びる人は10分になるという感じでやったほうが無難かもしれないです。

【加藤】　そうですね。5分から10分と書いておくのがいいかもしれないですね。

もし上村さんにやっていただいたら、いろいろ盛り上がりをうまくつないでいただくでしょう。それで、ぜひ西潟さんも参加していただいて、議論を盛り上げていただければと思います。

【西潟】　ありがとうございます。それは私も参加できるように楽しみにしています。

【加藤】　ということで、一番最後の挨拶というのがありましたっけ。一番最後にまとめ。まとめというのはなかなか難しいですけれども、これはどうしますかね。

【山崎】　どうですかね。時間的に、しっかりしたまとめなり挨拶というのはもう難しいと思いますので。

【加藤】　やめたほうがいいですよね。これで終了しますということですよね。

【山崎】　多分、活発化チームチェアとして加藤さんに終了の御挨拶を頂ければ、もうそれは二、三分ということでいいのではないかと私は思いました。

【加藤】　形式的な、これで終わりにしますということであれば、それでいいかなと。そこで時間の調整もできるので、取りあえずはそういうことで、最後、まとめということでよろしいですかね。形式的に、挨拶と。

それでは、大体、全部振りましたが、今日御参加の皆様、もしさらに、これで付け加えとか御意

見があれば、ぜひ出していただくと思いますけれども、お願いしたいと思いますが、一応この流れで、今日の皆様は進めるということでよろしいでしょうか。

【山崎】　浜田さんから手が挙がっています。

【加藤】　浜田さん、お願いします。

【浜田】　ありがとうございます。

ちょっと先の話なのですが、10月のIGF 2023に向けてのお話で、ユースについて今どんな状況かをできれば知りたいと思っているんです。というのは、10月の日本インターネットガバナンスフォーラム2022の際に、大学の授業で参加を呼びかけまして、参加した学生から、非常に勉強になったというコメントを多数頂いたんです。それで、特に来年度の授業で、IGFに関わる内容をたくさん盛り込んで、ぜひ学生に関心を持っていただいて、なるべく何らかの形で参加してもらえるように働きかけようと思っていまして、それで現在、ユースについての取組状況というのがどんな感じになっているのかをお教えいただけるとありがたいです。

【山崎】　山崎ですけれども、過去、このチーム会合でユースについて提案させていただきましたが、すみません、全く進んでおりませんで、ちょっとこの会合にも提案できる内容がないので、ここ二、三回、何も出していない状況なのですけれども、過去、こういうものをやったらどうかというのはありますので、それを全部やれるかどうかはともかく、少しでも一部でもやれればいいなと思っています。

メインは、いろんなところに横断的にということなので、1つの教育機関ではなくて、いろんなところが、例えば講義なりプレゼンを共有できればという思いでやっているものなので、本務校なり、非常勤で行っていらっしゃるところなりの許可が得られないと難しいかもしれませんけれども、例えば浜田さんがなさった授業を、もし可能なら一般で共有するとか、それをほかの学校が使うとかというのができたらいいなとは思っているのですけれども、その辺をちょっと、実現可能性も含めて御相談させていただければと思います。

【浜田】　ありがとうございます。同じように、いろんな大学で教えていらっしゃる先生方の間で、こういう情報を共有できればよいなと思いますので、またぜひよろしくお願いします。

【山崎】　ありがとうございます。そういう意味では、教えていらっしゃる方々で集まって、何か、こういうふうにしたらいいねというのを出していただけると一番よかったりするので、そういうのができないかどうか、メーリングリストでお伺いしようと思います。

【浜田】　そうですね。あと、立石さんも本格的なことを大学でやっていらっしゃると思うので、その辺をぜひお教えいただきたいと思っています。またよろしくお願いします。

【山崎】　よろしくお願いします。

【加藤】　では、この件はこれで、ちょっともう時間がいっぱいになったのですが、飯田様は御出席でしょうか。まだ御出席ではなかったでしょうか。

【飯田】　います。

【加藤】　飯田さん、時間が押している中で恐縮ですけれども、何か御報告いただくことがあればよろしくお願いします。

【飯田】　年末年始だったこともあって、あまり具体的な進捗があるわけではないのですが、国連のIGF事務局とは、1月以降のスケジュールの関係などの連絡を取っていまして、今年については、例年より1か月ないし2か月早い開催になるので、例年よりも少し短縮したというか圧縮したスケジュールで、早めにやらないといけないということで、今、多分、事務局側で、10月までのいろんなスケジュールを整理してくれていると思います。

多分、今、皆さん御案内のとおり、テーマの募集をやっていますけれども、その後、セッションの募集というのが例年4月ぐらいにオープンになりますが、多分少し早いのではないかなと思っています。まだ具体的には聞いていないので、今後それを、我々ホスト国側とも相談しながら決めてくれるということだと思いますので、また皆さんにも共有したいと思います。

あと、例年そうなんですけど、準備の途中で、国内でホスト側の準備、こんなことをしているとか、会場はこんなふうになりますとか、結構、情報を提供して、ほかの国の人たちに紹介して、来てもらう意欲を高めるというようなこと、それだけではないのかもしれませんけれども、やってきていますので、またそういうところは、我々だけでは十分、情報を出せないかもしれませんので、皆さんとも協力いただいて、そういうところに情報発信していく中身を御相談できればと思ってもいます。

今回はその程度でございます。

【加藤】　飯田様、ありがとうございます。皆さん、御質問はございますか。

ありがとうございました。飯田さん、もしいろんなスケジュールが前倒しになった場合、アクションが早めに必要になるので、分かればこのグループにも、例えばメールとかで適時情報をぜひ流していただければと思います。

【飯田】　分かりました。よろしくお願いします。

【加藤】　よろしくお願いいたします。

それでは、時間がもう予定時間を過ぎているのですけれども、あと、いろいろなところへの働きかけ、2023年の広報の話ですね。これについては、先ほどのビデオに関してはスライドを作るということで、前村さんに御確認いただいたので、その前提で、あと学会関連でいろんな案内先リストをつくる。これについては、山崎さん、今、ドラフトを頂いたと思いますが、いかがでしょうか。

【山崎】　先月、メーリングリストに投げて、まだどなたからも反応がないという状況ですね。だから、中身が、ビデオができれば速やかに、そこに載っているところには片っ端から連絡するということしかないかなと思っています。

【加藤】　ありがとうございます。前村さんもですけれども、これは、タスクフォースのほうのお声がけするものとうまく連動したほうがいいと思いますので、その辺は活発化チームでも御了承いただければと思います。タスクフォースのほうは、タスクフォースに参加しましょうということをお声がけするわけですけれども、ある意味では、これは同じような考えでコンタクトするということになりますので、その辺の調整は事務局に、ある程度お願いするということで御了承いただきたいと思います。

ということで、この点について、何か御質問はございますでしょうか。

もしなければ、時間がもういっぱいになっておりますので、次回なのですけれども、次回は、もともとの予定では、昨日の月曜日から3週間後ということであれば、1月30日の5時から7時ということになります。これでよろしいでしょうか。次の2月9日でしたっけ、報告会とのタイミングで、これぐらいの時期に次回開催して、もしいろいろ最後、確認・調整が必要なことがあれば、ここでできるということもありますので、できればこれで、予定どおりのスケジュールでやらせていただければと思います。よろしくお願いします。

それ以外、何か触れなかったこと、ぜひコメントを頂きたいことというのはございますか。皆さん、よろしいでしょうか。

それでは、今日も長い間、大変ありがとうございました。いよいよ2023年になりました。今年1年、ぜひ皆様、よろしくお願いしたいと思います。

今日はこれで終了させていただきます。どうもありがとうございました。

−− 了 −−